



春色に咲く桜の下で

第6回富士フィルム九州 感謝Day! さくら祭り

第6回富士フィルム九州 感謝Day! さくら祭りが3月30日、富士フィルム九州株式会社で開催されました。

当日は心配されていた雨もあがり、約4,000人の来場となり、楽器の演奏や抽選会などのさまざまなステージイベントで盛り上がりました。また、菊陽町の農産物販売や三里木商工繁栄会・夢街光の森会などの出店も大変にぎわいました。満開の桜の中で来場者は思い思いに楽しい時間を過ごしていました。



▲大勢の人でにぎわう会場

新しい自治会が誕生

にじの森自治会設立総会

菊陽町に新しく「にじの森自治会」が誕生しました。3月30日に「にじの森自治会設立総会」が開催され、規約や事業計画などが承認されました。にじの森は旧RKKグラウンド跡地を住宅地として開発されたもので、165の区画内に、現在127世帯が暮らしています。自治会の設立には、設立世話会がアンケートを実施するなど、住民の意見を聞きながら準備が進められました。今後は、より良い地域づくりを目指して自治会活動に取り組みます。



▲今後の自治会運営について説明を受ける住民

防災意識を高めよう

菊陽町防災(水防)訓練を実施

菊陽町防災(水防)訓練が3月23日、午前9時から白水地区の行政区を対象に菊陽南小学校で実施されました。訓練は大雨による白川の増水を想定。町職員が災害対策本部と避難所の設置訓練を、消防団第1分団(白水地区)が情報の収集・伝達、交通規制の訓練を行いました。防災行政無線で避難勧告が行われると、各地区の自主防災組織などは住民を避難所まで誘導する訓練を行いました。参加者約400人全員が真剣な表情で訓練に参加していました。



▲災害対策本部の設置訓練をする町職員

手に汗握る熱き戦い

第16回 SUGINAMI CUP ジュニアユースサッカー大会

菊陽町サッカー協会主催の第16回 SUGINAMI CUP ジュニアユースサッカー大会が3月21日・22日、菊陽杉並木公園スポーツ広場で行われました。

これは、サッカーを通じて中学生の健全な育成を目指すとともに、技術と精神力の向上を図り、選手間の交流を深めることを目的に、町内中学校2校と県内の強豪中学校6校を招待して開催。大会は、菊陽中学校と武蔵ヶ丘中学校が決勝戦に勝ち上がり、菊陽中学校が7年ぶり2回目の優勝を果たしました。



▲ゴール前に攻め上がる菊陽中学校サッカー部員

交通事故防止のために

春の交通安全運動(4月6日~15日)

「子どもと高齢者の交通事故防止」をテーマに、春の交通安全運動が4月6日~15日に行われました。これに合わせ、交通安全の意識を高め、交通事故防止を図ることを目的とした「大津地区交通安全推進大会」が4月4日、菊陽町図書館ホールで開催。JR九州熊本支社安全推進室などによる交通安全講話や馬場楠獅子舞保存会の踊りが披露されました。

また、シートベルトやチャイルドシートの着用を呼び掛けるキャンペーンが4月10日に行われました。



▲交通安全を呼び掛ける交通安全母の会

保育園は楽しいところだよ

町立・私立保育園の入園式

町立・私立保育園の入園式が4月5日、各保育園で行われ、新たに243人の園児が元気よく登園しました。なかよし保育園(中島てるみ園長)では15人の園児が新たに登園。中島園長は「保育園は積み木やままごと、給食など楽しいことがいっぱい。たくさんの友達がみんなを待っています。毎日元気にあいさつして登園しましょう」と話しました。新入園児は大きな声で返事をし、保護者と一緒に歌を歌ったり『おおきなかぶ』のお話を聞いたり笑顔いっぱいでした。



▲『おおきなかぶ』のお話を聞くなかよし保育園の園児

認知症本人と家族の思いを理解しよう

第4回認知症をもっと知ろう! in 菊陽

町民対象の講演会「第4回認知症をもっと知ろう! in 菊陽」が3月8日、菊陽町図書館ホールで開催されました。

これは、認知症の啓発を目的に、町が4年前から毎年開催している講演会で、今年は220人が参加しました。

今回は映画「明日の記憶」(2006年公開 渡辺謙主演)のモデルになった越智須美子さんが若年性認知症の夫への16年にわたる介護体験や認知症本人、家族の思いを講演しました。若年性認知症とは、65歳未満で発症する認知症のことで、全国には約38,000人いると推計されています。

映像も交えた分かりやすい講演で、参加者からは「認知症は決してひとごとではない。これからも勉強して支え合っていきたいと思った」「認知症の家族の人にしか分からない悩みや苦しみ、生きがいなど現実的な話を聞くことができ本当に良かった。身近な人が認知症になったときの対応の仕方について考えさせられた」などたくさんの感想が寄せられました。



▲講演をする越智須美子さん



▲熱心に聞き入る参加者の皆さん



豊かな地下水と自然を守る

山内本店「くまもとグリーン農業」応援宣言

みそ・しょうゆ製造の山内本店全社員と家族計219人が「くまもとグリーン農業」の応援を宣言し、4月14日、宣言書が交付されました。全社員での宣言は今回が初めて。同農業は化学合成の肥料や農薬をできるだけ使わない農産物を作る取り組みのことで、豊かな地下水と自然を守ることが目的です。同社は、この農産物で加工品を製造することや購入の和を広げることなどを宣言しました。山内卓社長は「子どもたちに未来永劫地下水を育てていきたい」と力強く話しました。



▲くまモンから応援宣言書を交付される山内卓社長

相互の連携と協調を図る

菊陽町地域婦人会総会

菊陽町地域婦人会総会(岩根祐美子会長)が4月12日、中央公民館で開催されました。これは町内支部婦人会の連携と協調を図ることを目的としたものです。

平成26年度は男女共同参画社会の実現を目指し、心豊かな人づくり、地域づくりに重点を置くこととした努力目標の唱和を行いました。

その後、町介護保険課が認知症のサポーター養成講座を行い、認知症の種類や症状、地域で支えていくための支援制度について話しました。



▲認知症について学ぶ菊陽町地域婦人会の皆さん

最高年齢92歳！元気はつらつプレー

2014火の国グラウンド・ゴルフフェスティバル

熊本県グラウンド・ゴルフ協会主催の2014火の国グラウンド・ゴルフフェスティバルが4月9日・10日、菊陽杉並木公園で行われました。晴れ渡る青空の下、全国から集まったグラウンド・ゴルフ愛好者約1,550人が競技を楽しみました。会場では町介護保険課が記憶力を診断するブースを設けたり、役員が漬物で参加者をもてなしたりと大変にぎわいました。天草から参加した倉田二一さんは「適度な運動で健康にも良い。友達もできて楽しい」と笑顔で話しました。



▲熱戦を繰り広げ、心地良い汗を流す参加者の皆さん

農業者の経営改善を支援

菊陽町営農指導員に委嘱状交付

菊陽町営農指導員の委嘱状交付式が4月3日、菊陽町役場で行われました。

菊陽町営農指導員は昭和63年から、町内農業者の経営改善を目的に活動していて、これまで歴代4人の営農指導員が活動してきました。

本年度から5人目の営農指導員として、泉恵市さんが活動します。泉さんは「多くの農業者の経営改善に役立てるよう、今までの経験を生かしていきたいと思っています」と決意を語りました。



▲5人目の営農指導員になった泉恵市さん(左)

希望を胸に新たな一歩

町立小中学校入学式

町立の小中学校の入学式が4月9日、各校で行われました。計937人の新生が入学。ぴかぴかのランドセルを背負った児童や真新しい制服に身を包んだ生徒は希望を胸に新たな一歩を踏み出しました。

菊陽中部小学校(中林義徳校長)では、142人の児童が入学。小さな晴れ着に身を包み、緊張した面持ちの新入生は、上級生や保護者に温かい拍手で迎えられながら体育館に入場しました。式の終わりには教科書と交通安全用品などが贈呈されました。

菊陽中学校(浦田安之校長)では、177人の生徒が入学。浦田校長は「自分の可能性を信じ、何にでも積極的に挑戦してください。友達を大切にしながら共に切磋琢磨することで成長することができます」と新入生に期待を込め、歓迎のあいさつをしました。

学校名	入学者数	学校名	入学者数
菊陽中部小学校	142人	武蔵ヶ丘小学校	71人
菊陽南小学校	9人	武蔵ヶ丘北小学校	68人
菊陽北小学校	56人	菊陽中学校	177人
菊陽西小学校	151人	武蔵ヶ丘中学校	263人



1拍手で迎えられながら入場する新入生2名前を呼ばれ元気よく返事をする新入生3代表で教科書と交通安全用品を受け取る4ぴかぴかのランドセルには夢がいっぱい5教室で安全帽などが配られる

まゆみ農園が最高金賞受賞

第10回農家・オブザイヤー2013-2014

食材宅配ネットスーパー「Oisix」主催の第10回農家オブザイヤー2013-2014の発表・表彰式が3月14日、東京都で開催されました。これは、全国1,000軒以上の農家のおいしい野菜の中から最も多くの感動を与えた野菜を消費者が選ぶ野菜王者ナンバーワン決定戦。今回、47人のノミネート者の中から、まゆみ農園(鉄砲小路)が初めて最高金賞を受賞しました。

今回受賞したまゆみ農園が作る「たつやのにんじん」は、にんじん独特のにおいが少なく、甘みとみずみずしさが特徴。収穫後の急速冷蔵でおいしさを維持する独自の出荷システムや農薬を使わないこだわりの土作りなどがおいしさの秘訣です。「にんじん嫌いだったが、にんじんを好きになった」という消費者の声も多くあり、非常に高い評価を受けました。

まゆみ農園の眞弓一保さんは「おいしさにこだわってにんじん作りをしてきました。このような賞をいただき大変感謝しています。今後もおいしいにんじんを作り続け、消費者に届けていきたいです」と笑顔で喜びと目標を話しました。



▲農林水産大臣林芳正さん(左)と眞弓一保さん(右)



▲甘さとみずみずしさが特徴の「たつやのにんじん」